

稚貝からのアサリ養殖技術の開発

【背景・目的・成果】

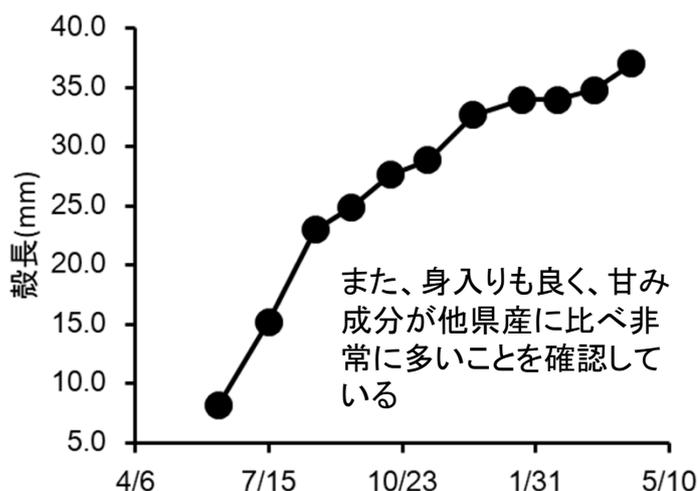
これまで県内のアサリ養殖は、他県の天然アサリを購入して行ってきましたが、全国的に天然アサリが採れなくなってしまったので、養殖用種苗の入手が困難になってきました。そこで、本県で人工生産したアサリを養殖用種苗として用いることにしました。これまで殻長20mmのアサリから養殖を開始する技術はありましたが、人工生産種苗を殻長20mmまで陸上水槽で育成するには、長期間飼育する必要があり、経費も大きいため、大量に供給することが難しい状況でした。そこで、5~8mmの稚貝からの養殖技術を開発しました。これにより、県内で安価かつ大量に人工生産した養殖用種苗を供給することができ、純兵庫県産養殖アサリを出荷することができるようになりました。



5~8mmアサリ稚貝(5月)



細かい目合いの網カゴに、砂より比重の小さい濾過材を敷き詰め、その中に小型種苗を高密度に收容し、海中につり下げて養殖を開始(フジツボなどの付着物が着きやすい時期には、網カゴは柔軟性があるので付着物を除去しやすく作業性に優れる)



殻長8mmからの垂下養殖



付着物が着かなくなったら(11月)通常の砂入りコンテナに移して養殖を継続し、3~5月に出荷

【技術の活用】平成28年度では、県栽培漁業センターで生産した殻長5~8mmの小型種苗(約100万個)を、西播磨地区の室津漁協、岩見漁協等の漁業者32経営体が養殖しています。